

美作国創生公募提案事業 事業成果報告書

- 1 事業名： 岡山県産材を使った木工ものづくりワークショップ
～デジタルファブリケーションで「森に根ざした暮らし」を提案する～
- 2 実施団体： 一般社団法人むらづくり新庄村
- 3 担当課： 美作県民局地域政策部 地域づくり推進課

4 事業概要

村が持続可能な地域として存続していくために、村を支える基幹産業である農林業について持続可能なビジネスモデルの構築へ向けたチャレンジとそのプロセスを広く公表することで得られる「前向きなチャレンジを続ける地域イメージ」をもって、地域ブランディングを一層推進していく必要がある。

新庄村において新たな地域づくりの取り組みとして令和3年に設置された木工ものづくりの市民工房「FabSpaceShinjo」を起点とし、「a.木工ものづくり人材の育成」「b.事業の経済性を担保できるサプライチェーン構築」「c.将来の販路を見据えた関係人口の創出」の3点について、本事業の取り組みの中でこれを推進していく。

5 実施内容

上にあげた課題に対応する取り組みとして、

- ・ものづくりワークショップ（全3カ所：senseTSUYAMA（津山市）、エキマエノマエ、余野なつつばき（以上真庭市））
- ・CNCデザインコンペ「里山空間デザインコンペ～森に、居場所をつくる」
- ・Webセミナー「ローカルの持続可能性とサーキュラーデザイン」

を実施した。また、本事業の成果物を新庄村で開催された芸術展「新庄村ゆかりの芸術家 同級生の二人展（令和3年10月17日～11月3日）」の会期に合わせてパネル展示した。当初実施を予定していたツアー、及びコンペ最優秀作品の制作は、コロナウィルス感染予防の観点から実施を見送った。



① senseTSUYAMAのワークショップ



② 工房見学をする参加者



③ 子供もいっしょにつくる



④ 完成したベンチ「きのっぴー」



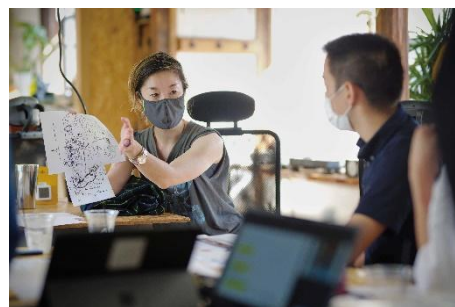
⑤ 作品が中庭を彩る



⑥ エキマエノマエのワークショップ



⑦ 設置場所を参加者で考える



⑧ 参加者によるプレゼンテーション



⑨ 大人も協力して場づくり



⑩ 子供たちも一生懸命に磨く



⑪ 柿の木の周囲を囲むベンチ



⑫ イベントで活躍するベンチ



⑬ 余野なつつばきのワークショップ



⑭ 地域の皆さんが協力してものづくり



⑮ 新しい遊び場となるベンチ



⑯ デザインコンペ最優秀賞「アシアト」

6 事業実施による成果、効果、今後の課題

（１）成果、効果

当初実施目的としていた3点について、次の効果が得られた。

a.木工ものづくり人材の育成

ものづくりワークショップの実施を通じ、木工用CNCルーター「ShopBot」のオペレーターとして村内の若者の育成を進めることができた。

現在では自由に機材を使いこなし、村内外からのさまざまな切削のオーダーを受注できるようになり、今後の村における木材資源を活かした産業振興に寄与するものと考えている。

また、本事業をきっかけに、当社で新たに若手人材の受け入れ（1名）も内定しており、地域資源を活かした産業振興を引き続き進めていく。

b.事業の経済性を担保できるサプライチェーン構築

コロナウィルスの世界的感染拡大に起因するウッドショックによる材料価格高騰を受けて発注先が限られ、安定的な供給力を持つ地元事業者（真庭市落合）との取引を新たに開くにとどまった。

c.将来の販路を見据えた関係人口の創出

ワークショップの実施を通じてつながりをもった企業、個人との共同プロジェクトや、村内外から制作実績をみたお客さまからの受注が得られた。

このうち、津山市でのワークショップを通じて始まった岡山県立大学・畠和宏助教授とのプロジェクトでは、当社が製造を担当した作品が賞を得るなど、ものづくりを通じた関係人口に広がりが生まれている。

また、CNCデザインコンペの作品はFabプロジェクトのドキュメントサービス「Fabble」にてクリエイティブコモンズとして公開されており、世界中の誰

もが参照、二次利用できるようになっている。

また、コロナウィルス感染予防のため実施を見送ったツアー企画の代替として実施した、地域内資源循環をテーマにしたWebイベント「ローカルの持続可能性とサーキュラーデザイン」（ゲスト：津田和俊氏・京都工芸繊維大学講師，小林弘人氏・株式会社インフォバーン代表取締役会長（CVO））は、全国から200名超に視聴され（令和4年3月31年現在）、新庄村のことやFabSpaceShinjoを通じた資源活用の取り組みを広く知っていただく機会となった。

[参考URL]

岡山県立大学 | 畠和宏助教（建築学科）と本学学生らが「 $\square^3$ LE：最低限のシェルター空間」国際コンペで最優秀賞を受賞しました

https://www.oka-pu.ac.jp/guide/guide_detail/index/5982.html

Fabble | 検索「#ffdc2021」（コンペ応募作品一覧）

<https://fabble.cc/search?utf8=%E2%9C%93&q=%23ffdc2021>

Youtube | 岡山県新庄村 特別オンラインセッション「ローカルの持続可能性とサーキュラーデザイン」

<https://www.youtube.com/watch?v=VwteaM-wm9c>

（２）今後の課題

まず、本事業で実施したデザインコンペの最優秀賞「アシアト」を完成させ、村の新しい観光スポットとして活用を進めていく。

本事業はこの先も続いていく、木工ものづくりの村・新庄村をつくっていくための第一歩となる事業である。引き続き担い手の育成や、地域に偏在するものづくりのスキルをつないで付加価値を高めて「地域木工」体制づくりを進めていくが、そのためにも村内でのCNCルーターの活用促進、また受託加工による売り上げ、利益の拡大を進めていく必要があり、今回の事業成果は対外的な事例として大いに活用できると考えている。

実際に、今回の事業成果を見て、近隣地域の事業者からの製品開発の相談、また県外事業者からの看板製作やセミオーダーでの建築部材の切削加工依頼の引き合い等が持ち込まれており、効果を感じている。

今後、林業の6次産業化を本格的に進めていくためには、原材料生産と製品加工の間をつなぐ製材・乾燥施設を村内で内製化することが不可欠である。そのために、実際に木材加工事業にニーズが存在し、事業として自立が可能であることを証明することで、サプライチェーンの間をつなぐ材料加工業についても、村内外からの事業資金の調達に道筋をつけていく必要がある。

7 県民局と連携した効果及び課題

事業の立ち上げ時に「ものづくりにとどまらず、事業の広がりを持たせ、関係人口創出につながる事業メニューを」という視点を導入していただいたことで、デザインコンペを開催し、新庄村での取り組みがものづくりに関心のある全国のデザイナー、建築設計事務所などに届いたことは大きな成果である。

コロナウィルスの感染予防の観点から、実際の誘客につながる施策は実行するに至らなかったが、本事業を通じて得られた人材育成の成果や「ものづくり関係人口」のつながりが、今後の新庄村における地域資源を活かした事業展開を拓いていくうえで大きな糧になっていくと思われる。

以上